

3章 1節～

では、ユダヤ人のすぐれたところは、いったい何ですか。割礼にどんな益があるのですか。それは、あらゆる点から見て、大いにあります。第一に、彼らは神のいろいろなおことばをゆだねられています。では、いったいどうなのですか。彼らのうちに不真実な者があつたら、その不真実によって、神の真実が無に帰することになるでしょうか。絶対にそんなことはありません。たとい、すべての人を偽り者としても、神は真実な方であるとすべきです。それは、「あなたが、そのみことばによって正しいとされ、さばかれるときには勝利を得られるため。」と書いてあるとおりです。しかし、もし私たちの不義が神の義を明らかにするとしたら、どうなるでしょうか。人間的な言い方をしますが、怒りを下す神は不正なのでしょうか。絶対にそんなことはありません。もしそうだとしたら、神はいったいどのように世をさばかれるのでしょうか。でも、私の偽りによって、神の真理がますます明らかにされて神の栄光となるのであれば、なぜ私がお罪人としてさばかれるのでしょうか。「善を現わすために、悪をしようではないか。」と言ってはいけないのでしょうか。——私たちはこの点でそしられるのです。ある人たちは、それが私たちのことばだと言っていますが、——もちろんこのように論じる者どもは当然罪に定められるのです。では、どうなのでしょう。私たちは他の者にまさっているのでしょうか。決してそうではありません。私たちは前に、ユダヤ人もギリシヤ人も、すべての人が罪の下にあると責めたのです。それは、次のように書いてあるとおりです。「義人はいない。ひとりもない。悟りのある人はいない。神を求める人はいない。すべての人が迷い出て、みな、ともに無益な者となった。善を行なう人はいない。ひとりもない。」「彼らののどは、開いた墓であり、彼らはその舌で欺く。」「彼らのくちびるの下には、まむしの毒があり、」「彼らの口は、のろいと苦さで満ちている。」「彼らの足は血を流すのに速く、彼らの道には破壊と悲慘がある。また、彼らは平和の道を知らない。」「彼らの目の前には、神に対する恐れがない。」さて、私たちは、律法の言うことはみな、律法の下にある人々に対して言われていることを知っています。それは、すべての口がふさがれて、全世界が神のさばきに服するためです。なぜなら、律法を行なうことによって、だれひとり神の前に義と認められないからです。律法によっては、かえって罪の意識が生じるのです。しかし、今は、律法とは別に、しかも律法と預言者によってあかしされて、神の義が示されました。すなわち、イエス・キリストを信じる信仰による神の義であつて、それはすべての信じる人に与えられ、何の差別もありません。すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義と認められるのです。神は、キリスト・イエスを、その血による、また信仰による、なだめの供え物として、公にお示しになりました。それは、ご自身の義を現わすためです。というのは、今までに犯されて来た罪を神の忍耐をもって見のがして来られたからです。それは、今の時にご自身の義を現わすためであり、こうして神ご自身が義であり、また、イエスを信じる者を義とお認めになるためなのです。それでは、私たちの誇りはどこにあるのでしょうか。それはすでに取り除かれました。どういう原理によってでしょうか。行ないの原理によってでしょうか。そうではなく、信仰の原理によってです。人が義と認められるのは、律法の行ないによるのではなく、信仰によるというのが、私たちの考えです。それとも、神はユダヤ人だけの神でしょうか。異邦人にとっても神ではないのでしょうか。確かに神は、異邦人にとっても、神です。神が唯一ならばそうです。この神は、割礼のある者を信仰によって義と認めてくださるとともに、割礼のない者をも、信仰によって義と認めてくださるのです。それでは、私たちは信仰によって律法を無効にすることになるのでしょうか。絶対にそんなことはありません。かえって、律法を確立することになるのです。

1 すべての人は罪のもとにある

パウロは、法廷というセッティングを想定し、自分自身を検事として立てて、被告人を責めています。神の国が実現されるためには、罪はさばかれなければならない。

第一番目の被告人は、異邦人。宗教を持たない人、偶像礼拝をしている人、まことの神を信じない人、その人達には罪がある。神を信じないだけでなく、もろもろの罪を行っていると彼は宣告し、死刑を求刑しています。

第二番目の被告人は、ユダヤ人です。信仰熱心、或いは、宗教、律法に対して熱心な人達。ところがパウロは自分もユダヤ人でありながら、ユダヤ人にも罪があるとさばいているのです。神にはえこひいきはないからです。

宗教を持っていようと、ユダヤ人であろうと、ギリシャ人であろうと、日本人、アメリカ人であろうと、黒人、白人、黄色人種であろうと、法廷において差別はない。すべてはさばかれなければならない。ユダヤ人も罪があるのだと言って糾弾し、異邦人に対するのと同じように、死刑を求刑しました。

さらに議論が進んでいきます。ユダヤ人と異邦人の共通の罪を訴えているのですが、9節から「では、どうなのでしょう。私たちは他の者にまさっているのでしょうか。決してそうではありません。私たちは前に、ユダヤ人もギリシャ人も、すべての人が罪の下にあると責めたのです。それは、次のように書いてあるとおりです。「義人はいない。ひとりもない。悟りのある人はいない。神を求める人はいない。すべての人が迷い出て、みな、ともに無益な者となった。善を行なう人はいない。ひとりもない。」「彼らののは、開いた墓であり、彼らはその舌で欺く。」「彼らのくちびるの下には、まむしの毒があり、」「彼らの口は、のろいと苦さで満ちている。」「彼らの足は血を流すのに速く、彼らの道には破壊と悲慘がある。また、彼らは平和の道を知らない。」「彼らの目の前には、神に対する恐れがない。」

私は、北海道に招かれ、「九条の会」で講演をさせていただきました。ブッシュ大統領の時代でしたので、彼らは「アメリカ憎き」、「ブッシュ憎き」、と盛んに言っておりました。私が「ブッシュ大統領は善良な人なのです。きよい、正しい生活をしている人で、立派な人格者ですよ」と言ったら、皆びっくりしたのです。「そんなはずはない。彼ほど邪悪な人はいない」と思い込んでいるのですから。実を言うと、彼は立派な人なのです。アメリカの大統領になったほどですから。ところが、その立派な人が「彼らの道には破壊と悲慘がある。彼らは平和の道を知らない。」ということばのようになってしまいました。立派な善良な人で、個人生活はきよく、正しいのですが、その同じ人が破壊と悲慘。アメリカ国民、イラク国民、そして全世界に戦争の道をもたらしたのです。多くの人々は、今日の経済的問題はブッシュが引き起こしたのだと言います。立派な人であったとしても、破壊や悲慘に関わっている。「立派な人ならば、罪とは関係ない」とは言えません。すべての人は罪のもとにあるのです。

19節～20節 「さて、私たちは、律法の言うことはみな、律法の下にある人々に対して言われていることを知っています。それは、すべての口がふさがれて、全世界が神のさばきに服するためです。なぜなら、律法を行なうことによっては、だれひとり神の前に義と認められないからです。律法によっては、かえって罪の意識が生じるのです。」

異邦人は神の前に弁解する事はできないし、ユダヤ人も弁解する事ができない。「我々は律法を行っているではないか。100%はできなかつたけれど、90%は行っている。10%破っただけで、どうして罪ありとするのか。不公平ではないか。最近のプラス思考者は、コップの水が半分である時に、半分しかないとは言わないで、半分もあると言うのですよ。私は90%律法を守っているではありませんか。私が破ったのは、ただ『殺してはならない』の一つだけです。90点ください。どうして殺人をただけで、律法全体を破っていると言うのですか。」そのような議論はできません。一つ破ったら、全部破ったのです。律法は完全に守らなければ、神の前に義と認められることができません。むしろ、罪の意識が生じるのです。

2 義への新しい満ち

しかし、神様は新しい道を示してくださいました。今は、律法とは別に、つまり善を行って認められると言う道ではないけれど、律法も賛成していて、預言者も賛成して証ししている神の義が示された。「すなわち、イエス・キリストを信じる信仰による神の義であって、それはすべての信じる人に与えられ、何の差別もありません。」

パウロは「差別がない」ということばを再度使っています。最初は、さばきについて、何の差別もないということでした。ユダヤ人であろうと、ギリシャ人であろうと、殺人を犯したなら、法廷においては何の差別もなくさばかれなければならない。私はユダヤ人です、クリスチャンです、アメリカ人です、韓国人です、日本人です、金持ちです、高い地位にあります、政治家です、それらのことは一切、条件の変化をもたらさないのです。殺人

犯は、殺人犯として、必ずさばかれる。

それと同じように、信仰によって義とされることも、何の差別もないのです。信じるなら、人種に関わらず、立場に関わらず、経済力に関わらず、信じることによって義と認められる。何の差別もありません。

「すべての人は、罪を犯したので、神からの榮譽を受けることができず、ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義と認められるのです。神は、キリスト・イエスを、その血による、また信仰による、なだめの供え物として、公にお示しになりました。それは、ご自身の義を現わすためです。というのは、今までに犯されて来た罪を神の忍耐をもって見のがして来られたからです。それは、今の時にご自身の義を現わすためであり、こうして神ご自身が義であり、また、イエスを信じる者を義とお認めになるためなのです。それでは、私たちの誇りはどこにあるのでしょうか。それはすでに取り除かれました。どういう原理によってでしょうか。行ないの原理によってでしょうか。そうではなく、信仰の原理によってです。」

ここに原理ということばが繰り返し使われており、後にもパウロは原理ということばを使います。原理とか、法則ということばですが、ローマ人への手紙に最もふさわしいことばです。たとえば、ピリピ人への手紙は、順序正しく書かれたものではありません。「終わりに言いますが」、と言ってしばらく書き、また「終わりに言いますが」と言って、また書いているのです。感情のあふれるままに、喜びにあふれて書いたからです。ピリピ人への手紙には、原理とか、法則とかいうことばにはふさわしくありません。しかし、ローマ人への手紙は、総体的であり、組織的であり、理論的であり、法学的であり、原理ということばがびったりするのです。

パウロはここにおいて、信仰の原理について説明しようとしています。もうすでに、「すべての人は罪を犯したので神からの榮譽を受けることができない」という第一番目の原理を、パウロはセットしました。ギリシヤ人であろうと、ユダヤ人であろうと、異邦人であろうと、すべての人は罪を犯した。神には何の差別もない。法廷においては、罪はさばかれなければならない。

3 ただ神の恵みにより

そして信仰の原理について説明を始めます。第一に、24節「ただ、神の恵みにより」ということです。“only by the grace of God”

「恵み」というのは、神様の一方的な行為です。私達が回りを見回すなら、神様の恵みを見ることができます。「神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められる。」と1章で読みました。

生きて行くために欠けてはならない空気は、神の恵みです。私達は一生の間呼吸していて、5分息を吸わなければ死んでしまうのですが、空気は恵みによって、無代価で与えられています。ただです。一生の間に、何回呼吸するのでしょうか。何度、酸素を吸い込み、炭素を吐き出しているのでしょうか。60億人もの人々が、朝も、夜も、寝ている時でさえ酸素を吸い込んでもなくならない豊かさ。それは神様の恵みのあかしです。

太陽の光線なくして私達は存続できませんが、太陽の光線に対して、私達はお金を払うでしょうか。水がなくしては生きていけませんが、天から降る雨という恵みは、ただ一方的な神様の恵みとして与えられます。雲というもの私達に雨をもたらしますが、雲が太陽の光線を適当にさえぎるので、地球は灼熱化しないのです。この雲は、地球の温度が逃げないように覆ってくれるので、地表の温かさが保たれます。雲も神様の恵みです。雲のおかげで、温度や湿度のバランスが保たれ、地球の生活が成り立っているのです。

今日の物理学では、E T (extraterrestrial)は存在するという意見がほとんどです。E Tという傑作の映画もあります。物理学者は、「同じような環境があるなら、異星にも人類の存在はあり得る。広大無辺の宇宙、何十億光年という大きさ、星の数は海の砂の数と同じくらいあるのだから、必ず地球と同じような環境の惑星があるはずであり、必ずそこには知的な生物が発生しうるし、むしろ、彼らの方が私達より文化が進んでおり、私達より知的であるはずだ」と言って、科学者達が宇宙に交信しようとしているし、宇宙からのメッセージをキャッチしようとしています。それは、知的な存在が絶対あるということを想定して行っているのです。そのようなS F

小説、映画も絶えずつくられています。

私は、自信たっぷり話しているわけではありませんが、地球のような星、地球のような存在、人間のような知的存在は、ほかにないと思っています。神様は、この宇宙で最も小さい地球、宇宙においては埃一つにすぎない、サイズで言えば何の価値もないような地球を、あえて選ばれた。ここに美しいのちを満たしたのです。海の中には数えきれない魚がいる。そして地上は緑の牧場、花、そして実をつける木、糧になる植物で満たされている。空には鳥が、地上には動物が、その上で神様は、人間をお造りになりました。

人間は、地球に神様が備えられた絶妙なバランスの中で、初めて存在できるのです。地軸がほんの少し変化するなら、人間が一番初めに滅亡するそうです。ちょっとしたことで、地球はなくなってしまうのですが、神様はそれを保ってくださいている。もしこの空気のバランスが少し壊れたら、多くの生物が死んでしまいますが、一番初めに死ぬのは人間です。絶妙な空気のバランス、天候のバランス、気温のバランス、海と淡水、山と丘、谷、光線が少しでも強ければ灼熱化してしまいますし、温度がほんの10度でも上がれば、地球のいのちは存在できません。ほんの10度でも下がるなら、多くの生物は死んでしまいます。

あちらこちらの星に、水があるのではないかとされています。たとえば火星、しかしその回りには時速何千キロという雲が、地球の持っているおだやかな雲ではなく、絶えず激しい暴風が吹きまわっています。確かに水はあるかもしれませんが。では水があれば生命体があるのでしょうか。その回りには激しい雲があって、絶えず絶えず嵐という状況です。

私は、いのちは地球にしかありえないと思っています。皆さんが違った意見でもかまいませんが。

神様はあえて、地球を愛し、地球をいのちで満たし、あえて、この小さな人間をつくり、あえて神様は愛された、と私は思うのです。この地球をほんの少しでも見回すなら、神様の恵みで溢れている。一方的な愛です。

たとえば、親達が赤ちゃんの面倒を見る。赤ちゃんは親の為に、何の奉仕もしません。しかし、親は一方的に赤ちゃんの面倒を見ます。それも恵みです。

あれも恵み、これも恵み、この宇宙全体が、この自然界が、神様をあかしし、特に神様の恵みをあかししているのですが、誰が太陽の光線について感謝し、誰が雨について感謝をし、誰が空気について感謝をするのでしょうか。私達は当たり前と思っていますが、実はそれは神様の大きい愛と知恵のおかげです。アインシュタインが言ったように、「これ以外の方法では生命の存在はあり得ない」のです。神が創造された、これしかあり得ない。

4 キリスト・イエスの贖いのゆえに

「ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに」と書いてあります。

贖いというのは、ビジネス用語で、買い戻すという意味です。たとえば、「きれいな絵ですね、しまっておくのはもったいない。15万円はどうですか」「え？15万円ですか。どうぞ買ってください」と、思惟さな絵が売れました。おじいちゃんに言ったら、おじいちゃんが「あれは私の父が書いたもので、お金には換えられないんだ。かけがえのないものなのだ。そしてお前に譲るものなんだよ」と言う。「そうだったのですか。買い戻して来ます」。そして交渉すると、「私もビジネスでやっているの、15万円を買ったものを15万円で売る事はできません。25%上乘せしてくれるなら、買い戻してもいいですよ」「わかりました。25%余計に払います」と買い戻してくる。そのようなことがあったら、それは「贖われた」「贖った」ということばで表されます。一度売ったものは、盗んでくることのできないので、買い戻して来るのです。新しい所有者の言う値段で買い戻さなければならない。贖いです。

そして「イエス・キリストの血による」と書いてあります。神様が私達を買い戻すために払った代価はなんとひとり子イエス・キリストの「血」なのです。どうして神様が、血という代価を払って買い戻さなければならなかったのでしょうか。

第一番に、たましいには価値があります。「人は、たとえ全世界を手に入れても、まことのいのちを損じたら、何の得がありません。そのいのちを買い戻すには、人はいったい何を差し出せばよいでしょう」とイエス様

は言いました。全世界の富を手に入れても、たましいを失ったら何の価値があるか。イエス様が言ったのは、一人のたましいの価値は、全世界の財宝よりも価値があるということです。私達には理解できないことですね。「俺のたましいにそんなに価値があるのか」と思うのですが、神様の目から見ると価値があるのです。

一匹の羊が失われたなら、羊飼いは99匹を冊の中に残して、その1匹を探しに行かないだろうか。もし見つかったら、肩にかついで来て、「私と一緒に喜んでください。死んでいた羊、失われた羊が見つかったのだから」と言う。すると天においては、一つのたましいの救いのために大宴会が開かれる。どうして1匹の羊のために、どうして一人のたましいのために、そんなことが起こるのか。神様の価値観から言うと、そうなのです。

高級車を買に行きます。500万円。鍵をもらって試運転をします。「なかなか良い車だ。これにしよう」、と家に持って帰ってしまった。すると警察が来て、手錠をはめられて、連行されますね。「すべては神の恵みですと平野牧師に言われました。空気は自動車より貴重ですが、タダなんですよ。だから自動車もただでしょう」というわけにはいきませんね。500万円払うということは、その車と500万円との価値が同じだということに同意して、契約を結ぶということです。

神様が私達のたましいを見た時、それは、御子イエス・キリストの血と同等の価値があると判断したのです。血によって贖うべきだ。血によって代価を支払おう。一人一人のたましいの価値は、御子イエス・キリストの十字架の血と同じ価値がある。

私が車を買う時に、もし私の息子とか、会社の社長さんとかが、あらかじめ500万円払ってくれていたなら、私にとってはただです。誰かが代わりに払ってくれたからです。それが「キリスト・イエスの贖いのゆえに、値なしに義と認められる」、ということです。

アダムとエバが罪を犯しました。「あなたは園の中央にある善悪を知る木の実から、取ってためてはならない。それを取って食べるその時、あなたは必ず死ぬ」と神様はおっしゃった。ところが、その木の実を見ていると、いかにも美しく、おいしそうだった。園の中には実がなる木がたくさんあって、神様は、どれもこれも取って食べてよいと言われたのです。しかし、禁止された木の実が一番おいしく見える。すると、サタンがやってきて、「そうだろ、おいしいんだよ。神様が一番おいしいものを禁じているんだ。それだけではなく、それを食べると、あなたは神のように賢くなれる。目が開かれるんだよ。神はあなたをねたんでいて、あなたが神ようになって、自分と同等になることを恐れているんだ。さあ、食べてご覧」

神様のことばがあり、サタンのことばがありました。人間は意識的にサタンのことばを選んで、それを取って食べたのです。その時に、神からの霊の交流が絶たれ、人間の所有権が神からサタンに移ってしまった。私達は暗闇の国に入ってしまう、病とか、苦しみが起こり、死が人類に入りこんできました。死の恐れが人類を支配するようになり、やがてすべてのものは死んでいくようになった。「人間には、一度死ぬことと、死後にさばきを受けることが定まっている」と書いてありますが、それは人間が罪を犯したことが招いた結果です。

神様は、サタンの国に入りこんで、ひどくいじめられて苦しんでいる私達を連れ出したい。でも私達の髪の毛を掴んで、つまみだすようにして神の国に移すわけにはいかないのです。それは、一種の泥棒行為ですから。神は、代価を払って買い戻す、贖わなければいけなかった。そして神が、人間についての所有権を取り戻すために支払った尊い価が、御子イエス・キリストの十字架の血なのです。

5 贖いは血によると示されていた

ベツレヘムで生まれた大工の子どもが、ナザレで育って大工となり、エルサレムで十字架にかかれて、そこで流した血が、全世界の罪の贖いのためだということですが、なかなか理解するのが難しいですね。信じなさいというのは無理なことかもしれません。

しかし、神様は旧約聖書は、繰り返し、目に見える形で、血によって贖われることを示しています

まず最初に、アダムとエバが罪を犯した時、彼らはすぐに罪悪感や、恥を感じ、自分達のからだを隠しました。隠すために、彼らが用いることができたのは、イチジクの葉っぱでした。その頃のイチジクの葉は大きかったで

しょう。樂園ですから。しかし、葉っぱなので、一日に何回も取り換えなければボロボロになってしまう。自分の罪を隠そうとする人間をあわれに思った神が、彼らのために皮の衣をつくってあげたのです。皮であれば、一生着ることができますね。ところが、皮の衣をつくるためには、動物を殺し、血が流されなければいけなかった。このように、アダムとエバが罪を犯した創世紀第三章ですぐに、神様は血の意味の説明を始めているのです。

アブラハムが「あなたの子、あなたの愛しているひとり子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。そしてわたしがあなたに示す一つの山の上で、全焼のいけにえとしてイサクをわたしにささげなさい」と言われた。アブラハムは翌朝早く出発し、モリヤの山に行き、イサクを祭壇にくくりつけた。アブラハムがナイフを取って、イサクの首をかき切ろうとした時、神が「わかった。私は血を見た。それで十分だ。お前の信仰は証明された。あなたはわたしを愛し、わたしを恐れ、愛するひとり子まで惜しまなかったのだから、わたしはあなたを惜しまずに祝福する」と言われた。そして、神様がそこに備えてくださった子羊の血を、イサクの血の代わりにささげました。

イスラエルの民が奴隷から解放されるモーセの物語です。エジプトを出る前の日に、「わたしはエジプト全土をめぐり、エジプトのすべての初子を打つ」と神は言われた。人のパワーは初めて生まれた男の子にあるという考え方が、文化に浸透していましたが、「パロの初子から、家臣の初子、エジプトの民の初子、奴隷達の初子、家畜の初子に至るまで、わたしは初子を滅ぼす。モーセよ、あなたは民に命じて言いなさい。傷のない羊一頭を取って血を流し、その血を門柱とかもいにつけておきなさい。わたしがエジプトの初子を滅ぼす時に、その血を見るなら、わたしはそれを滅ぼさないで、過ぎ越す」と神は言われました。その夜、エジプトには大いなるうめきが起こりました。初子が皆、死んでしまったからです。うめきの起こらない家は一つもなかったと書いてあります。しかし、イスラエルは自分の家において、過ぎ越しの食事をし、平安が支配していました。

明らかに、神は血を見る。血が贖う。血によって守られる。そういうテーマが紹介されているのです。

ヨシュア記を見ると、エリコを攻め取るために二人のスパイが遣わされましたが、見つかってしまい、逃げた場所は、何と娼婦の館であった。娼婦ラハブは、彼らを見て、すぐに彼らを藁の中に隠してかくまった。スパイのいのちは救われました。ラハブが「あなたがたの軍隊が、東の国でエモリ人の王シホンやバシヤンの王オグになした壊滅的な力を、私達は知っています。あなたがたの信じる主がまことの神だからです。私達はあなたがたが私達を滅ぼすことを知って、恐れおののいています。あなた達がこの町を攻めに来た時、どうか、私と私の家族をお救いください」と言った時に、二人のスパイは、「わかった。あなたはいのちの恩人だから、救いましょう。その時、あなたの家（ラハブは城壁の中の部屋に住んでいたのです）の窓に、必ず赤いひもを結びつけておかなければいけない。家族全員、その中にいなさい。そうすれば滅ぼさない。もし赤いひもがつけられていないなら、或いは、その家にいないなら、エリコが滅ぼされる時、あなたがたの血の責任は私達にはない」。赤いひもが、そこに結びつけられているかどうかで、家族の運命が決定したのです。その赤いひもは、イエス・キリストの血をあかししています。

旧約聖書の中に、血によって贖われることを啓示する出来事は、数限りなくあります。イスラエルは過ぎ越しの祭りを毎年祝います。また、「贖いの日」と呼ばれる日があって、山羊の血が至聖所に持っていかれました。毎日毎日、子羊を殺し、その血によって罪の赦しの宣告が与えられていました。

血によって赦される。血によって贖われる。このテーマが旧約聖書を貫いていて、イエス・キリストを指し示していたことがわかります。

6 価なしに

「価なしに」、と書いてあります。なぜ、ただなのでしょう。

私がアメリカに行ったばかりの頃、英語ができないことで、毎日混乱を経験しました。ゴッホの絵がアメリカに到着し、指折りの美術館を巡ることが報道された時、アナウンサーが、「ヴァン・ゴッホの絵はプライスレスです」と説明したのです。Priceless 「値段がない。つまり、ただというのは、どういうことだろう」と不思議

に思って辞書をひいたら、「あまりにも高くして値段がつけられない」という意味でした。新宿で私も見ましたが、48億円だそうです。プライスレスですが、ゴッホの絵には値段は付けられますね。

イエス様の血は48億円でしょうか。イエス様の血こそ、あまりにも高価であるために、値段がつけられないのです。私達のいのちは、決して、「一千万円払ってください。」「一億円で贖ってください」と言うわけにはいきません。私達のたましいが高価で、プライスレスであるならば、神が払う犠牲も同じ価値のものであり、プライスレスでなければならぬのです。そして神は、愛する御子イエス・キリストを地上に遣わして、私達の罪のなだめの供え物とされ、十字架において血を流して、その代価によって私達を買い戻されたのです。

7 贖いの物語

今週、私は一つの書物を読み、そのお話がヒントになって一つの寓話ができました。贖いを説明するためにつくったお話です。

私には一人の息子と、一人の娘がいます。息子が幸福になるために、皆さんと同じように、教育のチャンスを与えたり、この子の才能はどこにあるかな、どういう仕事をしたら幸せになるだろう、生きがいを持って仕事ができるだろう、どうしたら母親から自立できるかな、と一生懸命考えて、やってきました。帰って来るとママとおしゃべりし、食事に行くのが大好きな子なのです。

私に、次男坊がいたとします。次男坊も幸福になって欲しいので、「勉強しなさい」「いい高校に入りなさい」と少し厳しすぎたようで、彼は15歳の時に家を飛び出してしまった。家にあったお金を持ち出して、盗んで行ったのです。親の気持ちも知らないで、父親を恨んでいる。「牧師の子らしくしなさい」「勉強ができなければまずいんだ」「クリスチャンらしくしなさい」とプレッシャーが多すぎて本当に嫌だったと言う。そうこうしているうちに、誰かと出会う、養子縁組を結んでしまった。その人は、食べさせてくれて、大学に入学させてくれた。しかし、そうこうするうちに仲が悪くなって、いじめられるようになった。でも、養子になって世話になっているので、言い返すことも、やり返すこともできない。やがて彼はすさんで、ぐれてしまった。アルコール依存症になり、覚せい剤に手を出し、病気になり、全くみじめな生活になってしまった。

私としては、何とかして彼を家に呼び戻さなければならぬと思った。それで息子に手紙を書く。「愛する息子よ。家に帰って来なさい。私達はとてもよい生活をしているから、一緒に暮らそう。しかし、あなたが家に帰って来る時に、不良というライフスタイルは認められないから、それを清算して、生活を改めて帰って来なさい。私達の平安なよい生活を乱すことがないように。覚せい剤は絶対にやめなければいけない。アルコール依存症もきれいにしてから帰って来なさい。そうすれば、大歓迎するよ。お前が盗んだお金だけど、耳をそろえて返すんだよ。そして親子関係をやり直そうじゃないか」と手紙を書いてみた。

書いているうちに、「こんな手紙を書いても息子は帰ってくるだろうか。覚せい剤をやめられるくらいなら、とうにやめているだろうし、アルコールが自分でやめられないから依存症なんで、気持ちがすさんだから不良になったんじゃないか。金が無いのに耳をそろえて返せと言っても。これでは絶対、あの子は帰って来ないだろう。どうしたらいいか。「盗んだ金のことは、私も忘れる」そう書こう。「不良のままでいい。そういう生活スタイルを持っていてもいいから、とにかく帰って来なさい。アルコール依存症、覚せい剤の依存症、そのままでいいから、ありのままで帰って来なさい。そして親子関係をやり直そう。」よし、これで大丈夫だ。

第1番目に、そうですね、ありのまま受け入れることです。

しかし、問題がある。それは、相手の養父が籍から抜いてくれないだろうということです。彼は彼なりに、金をかけたり、面倒を見たのだから。そして連絡すると、「色々、教育費がかかったんですよ。食べさせたり、部屋を与えたり、それだけじゃないですよ。何とかしてこの子をものにしようと思っていたのに、不良になったんですよ。私達の心の痛みはどのくらいだと思いますか。ですから、籍を抜いてあげると言っても、これこれの金額を払っていただければ、納得できないんですよ」

私は、「仕方ない。それを払おう」と言います。第2番めは、贖いの代価を支払います。

しかし、それだけではありません。帰って来る、帰って来ないは、彼の自由、彼の意志です。私は手紙を書いて、「ありのままで帰っておいで。あなたを迎えるよ」と言うことはできる。そして代金を払って、今の冷たい義理の父親から籍を抜くことはできた。だから「帰っておいで」と言う。しかし、帰って来る、帰って来ないは、本人次第です。父親を恨み、「私がこんなになったのは父のせいだ。アルコール依存症になったのも、覚せい剤に手を出したのも、病気になったのも、そもそもあの義理の父のところに行ったのは、父のせいだ。あんなにいじめられたのは、父のせいだ。私は父を恨む。父のところになど、帰るもんか」と言うなら。帰って来るかどうかは、全く本人の自由なのです。

神にできること、それは、「わたしはあなたを愛している。ありのままで帰って来なさい。あなたを喜んで迎えよう」と言って、「わたしは愛する御子イエス・キリストを送って、罪の贖いを完成したんだよ。そのために、わたしの愛する御子キリストが、あれほど苦しんだよ。わたしはあなたを愛し、あなたを赦す。あなたに新しいのちを与えるから、帰っておいで」と言うことまで、贖いをして、帰って来いと言うところまでです。

しかし、帰って来るのは息子の意志です。本人が決断し、帰ってくる以外にないのです。

ですから、パウロは一生懸命、信仰の原理を説明し、神の愛を説明し、「帰って来い、帰って来い、帰って来い」と手紙を書いた。全世界を駆け巡って、「神はあなたと和解している、さあ、帰っていらっしゃい」「私はキリストの代弁者として言うけれど、神の和解を受け入れなさい」「神はもう、あなたに対して怒っていないのだから、帰っていらっしゃい」と伝え続けたのです。

さあ、息子が帰って来たとします。まだぼろぼろの姿で、すさんだ心で、アルコール漬けで、覚せい剤づけであったとしても、家族の愛とか、励ましとかあって、時間がかかっても、新しい道を学んで行くのです。

7 復活の力 地獄を見た人は強い

渡部先生が、2週間前に、サンディエゴ・クリスチャン・フェローシップのマイク・マッキントッシュが主催するホライズン・ハドルという牧師会に出してきました。350人の牧師夫妻が来ていたとのことでした。

マイクは高校中退者です。18歳の時には結婚して、ちゃんと6ヶ月後に離婚しました。アルコール依存症になった。その頃はヒッピーの時代で、ヒッピーとして生きるしかなかった。ヒッピーたちが喜んで使ったのが、LSDです。ビートルズもやりましたが、インドのヒンズー教徒が悟りを開くために麻薬を使って、幻覚症状の体験の中で真理を見出そうとしたのですが、マイクは飲みすぎてしまった。幻覚症状の中で、仲間達が彼を取り囲み、彼のこめかみに銃を当てて、引き金を引く。音も聞こえる。その幻覚があまりにも強烈なために、頭を触るとちゃんとあるのですが、鏡を見ると右半分の脳が飛ばされてしまっているように見えるようになった。そして精神病院に通うようになりました。

そうこうしているうちに、コスタメサにあるカルバリチャペルにはヒッピーが集まり、救われているという噂が飛び込んできた。「ヒッピーが教会で受け入れられるなんて話は聞いたことがない。行ってみよう」と思ったそうです。チャック・スミス先生は彼を信仰に導いたのですが、マイクを見た時に、「この男は、もう立ち直ることはない」と思った。キリストを信じて、永遠のいのちを持ち、天国に行くことはできる。しかし、この世ではもう、正常な日常生活はできない。回復できないほどに、麻薬にやられてしまった。チャック・スミス先生は、そのような多くの例を見て来たので、見た瞬間に、「この男はだめだ」と思ったそうです。

ところが、神様の力はすさまじく、マイクは回復しました。2番めに離婚した奥さんを信仰に導いて、再婚し、それから4人の子どもが生まれ、そして牧師になって1万人もの人を牧会するようになり、何十という教会が彼から生まれています。その一つである”The Rock”という教会は、彼が育てた黒人の牧師がつくったのですが、2万人の教会員がいるそうです。

アメリカでは「地獄を見た男は強い」と言います。地獄を見た男は、決して地獄に帰って行かない。マイク先生は、「私は地獄を見ました。私は決してそこに戻りません」と言います。「どうして、もう一度覚せい剤をし

たり、アルコール依存症に戻ったり、そのような怖い生活に帰って、地獄に戻る必要があるでしょうか。」

私の次男坊も、地獄を見て来ました。しかし、愛によって癒された時には、もう二度と地獄の門をたたくことはないでしょう。そのようにして、新しい家庭で、新しい関係が生まれ、新しい生活が始まり、そして徐々にですが、生活が変えられていくのではないのでしょうか。

8 神の義が現わされた

最後に、ここに、ご自身の義を現わすということばが繰り返し書かれています。21節「神の義が示されました」、22節「イエス・キリストを信じる信仰による義であって」、25節「ご自分の義を現わすためである」26節「それは、今の時にご自身の義を現わすためである」。

神ご自身の「義」が明らかにされたということは、今まで神の義が隠されていたということです。23節に「というのは、今までに犯されて来た罪を神の忍耐をもって見のがして来られたからです」と書いてあります。忍耐というのは、中途半端な概念です。自分を押しさえている。すっきりしない状態が忍耐です。

先週の日曜日には、旧約聖書のテーマである、あわれみ、慈愛、”loving kindness”「ヘシッド」についてお話ししました。モーセが「神様、あなたはどのようなお方ですか」と言った時に、神が答えたのは「主、主は、あわれみ深く、情け深い」でした。ですから、旧約聖書に現われているのは、あわれみです。しかし、あわれみというのは中途半端なのです。ここに書いてあるように、「忍耐をもって、見逃して来られた」。見て見ないふりをする、大目に見るのがあわれみなのです。

神様は旧約聖書において、人々をあわれまれた、ということは、罪があるにも関わらず、ないかのように見過ごして来られた。見えていたが、見ないふりをされた。そういう時には、神の義が現われなかったのです。神の義、或いは義というものは、罪がさばかれて初めて証明されるわけです。旧約時代においては、神様の義は、中途半端だった。神様の愛も中途半端だった。神様はあわれんでいただけで、しかし、新しい時代、イエス・キリストが来た時に、神の義が明確にされた。そして、人間の罪も明確にされたのです。

今から18～19年前のことですが、私はサンタバーバラを訪問しました。私がホライズンの開拓伝道を始めたところで、渡部牧師が、まだサンタバーバラで牧師をしていた時です。渡部牧師の家に泊まりましたが、時差ボケで夕飯を食べるとすぐに寝てしまう。朝の2時にぱっちり目が覚めて、再び寝る事ができない。アメリカでは24時間のレストランがたくさんあります。朝食を食べながら、聖書を読んだり、書き物をしたり、説教の準備をすると、不思議にはかどったものです。それでレストランに行きました。入口の一番近くのスペースが空いていたので、そこに駐車して中に入りました。お客さんは5～6人しかいないので、ウェイトレスのサービスがとてもよく、コーヒーを何度もついでくれて、楽しい時間をそこで過ごしました。

8時ころ、家に帰ろうと思って、渡部先生にお借りしていた車のところに来ると、窓に大きな紙が貼ってあって、「駐車違反、罰金を払いなさい」。アメリカの駐車違反は高が知れていて、ポイントにはならないし、25ドルか30ドルくらいです。ところが、300ドルと書いてあった。ハンディキャップ・パーキングを犯したのです。それが一番悪いことなのです。300ドルあれば、当時は日本とアメリカを往復する事ができました。参った。

その夜、カルバリーチャペル・サンタバーバラで、私はメッセージを頼まれていました。みんなを笑わせるために、「私はこんな失敗をして、こういうチケットをもらって、300ドルですよ、皆さん信じられますか」と言ったら、爆笑が起きました。牧師が失敗すると、みんな大喜びするのです。「誰か、助けてください」と叫んだら、また爆笑が起こったのですが、礼拝が終わった時、「パスターヒラノ、私はサンタバーバラ警察で働いている警察官です」と言いに来た人がいました。

サンタバーバラは小さな都市で、それだけに、誇りを持っているのです。文化的であるとか、町が美しい、気候がいい、海がきれいだ、病院が整っている、大学がいくつもある。そして、治安がいいというのがサンタバーバラの誇りなのです。アメリカの他の都市とは違う。私達は治安がいいのだ。だから警察官が駐車違反をしても、絶対に赦してもらえません。情状酌量は、サンタバーバラにおいてはめったにない。

「でも、平野先生は旅行者ということで、大目に見てもらえるように、明日の朝、判事にお話ししてみますから、事情を説明してください」と申し出てくれました。「私は牧師で」と書き始めました、アメリカでは牧師は大目に見てもらえることがあるのです。スピード違反でも、「教会に急いでいる」と言うと、「では行きなさい」と赦してもらったり、月曜日には、多くの場所で牧師はただでゴルフができます。何十年前からそうなのです。私はどうして日本に帰って来たのでしょうかね。

ともかく、私は牧師であり、朝2時に、暗くて、ハンディキャップ・パーキングのサインを見る事ができなかった。ハンディキャップの人は誰も入って来なかったのも、迷惑にはならなかった。旅行者で、ハンディキャップ・パークが入口のそばにあることを知らなかった。(日本ではそうではありませんものね。日本では、ハンディキャップの人が生活するのは大変です。アメリカでは、どの建物、どのキャンパス、どの駐車場でも、ハンディキャップの人のための準備がなされているのです。キリスト教を土台とした文化の違いです。)

彼は丁寧にノートを取って「明日の朝9時に電話します」と言いました。次の朝、電話を取ると「平野先生、判事が理解してくれました。罰金は免除されました」ということで、胸をなでおろしたのです。

これは、あわれみと言います。犯罪を犯したのですが、旅行者だし、牧師だから、お金がないかもしれないとあわれんで、色々なことでかわいそうに思って、情状酌量されるはずがないのに、そうされたのです。

しかし、もし判事が「そんな例外をつくったら、どうなるの。旅行者や牧師は、みんな情状酌量しなければならないの。夜中だからいいと言ったら、夜の11時はどうするの。情状酌量になるかどうか、いちいち判断するような、そんなことはできない。犯罪は犯罪。罰金は払わなければいけない」と言って、その警察官が「判事は罰金を払うように言いました。でも、私が代わりに300ドル払いましょう」と言って、罰金を代わりに払ってくれたとしたら、「あわれみ」を受けたわけではありません。「私が代わりに300ドル払いましたから、ご心配なさいないでください」と言われたのなら、それは「恵み」と言うのです。

「あわれみ」と「恵み」の違いがわかりますか。あわれみは大雑把で、適当で、見て見ないふりをします。見逃すのです。恵みの場合は、犯罪は犯罪、罪は罪として罰せられる。罪が罰せられなければ、義というものが現われぬ。罪はさばかれなければいけない。しかし、すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けられなくなっているという現実の中で、「わたしがさばいたら、人類全体を地獄に送るしかない」と判断した神は、「ひとり子をたまうほどにこの世を愛された」のです。愛する御子に向かって「お前、行ってくれるか。人類の罪を負って、刑罰を受けてくれるか。人類を救って欲しいのだ」「お父さん、あなたを愛し、あなたに従います」ということで、イエス・キリストが地上に来られて、十字架にかかれて、血を流した。

罪の赦し、それは、私達にとっては、ただなのです。しかし神にとっては、全財産を破産させるような出来事だったのです。私達と同じ、イエス・キリストのそのからだに、釘が打ち込まれるとは、どういうことでしょうか。体の重みで十字架からからだ垂れてしまい、体重が釘を打たれた手足にかかり、息をするのも苦しい。その十字架に6時間もかかり続けた。しかし苦しみの極限は、「我が神、我が神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」と叫んだこと、父なる神から見捨てられる経験をされたことです。私達の罪を贖うためでした。

言い尽くしがたい神様の恵みに感謝します。ただただ、神の恵みによって、私達は救いに預かったのです。

お祈りします。主よ。心から感謝します。あなたの偉大な贖いのゆえに、心から感謝します。ただただ十字架を見上げ、私達の救いがそこにあり、それ以外のどこにもないこと、このすばらしい恵みのみわざに、私達は何も加えてはならない。自分の善行も、信仰も、宗教も、自分の奉仕も、何も付け加えてはならない。ただ神の恵みによって救われたことを感謝します。私達は感激し、感動し、感謝をし、喜び、あなたを愛して、あなたにお仕えします。この素晴らしい恵みを、一人でも多くの日本人に届けることができますように、キリスト・イエスの御名によってお祈りいたします。アーメン